

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370753

研究課題名(和文)台湾総督府における地方行政機関の文書史料学的研究

研究課題名(英文) Research on the documents archive studies of the local offices of the Taiwan Governor-General Office

研究代表者

東山 京子 (HIGASHIYAMA, KYOKO)

中京大学・社会科学研究所・研究員

研究者番号：80570077

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：台湾における日本統治時代の地方行政機関の文書には、台湾総督府に引き継がれた旧県文書のほか、近年、日本の村文書に相当する台北州の鶯歌庄文書や台中州の内埔庄文書などの文書なども現存していることが判明した。これらの末端機関の文書を分析した結果、県よりも下部組織である街のさらに下部にあたる庄の文書の編綴方法は、案件項目ごとに分類され、年度ごとに編綴されていたことが判った。その理由は、直接住民にかかわるため案件が多様で、本府と同様の門類分類が出来なかったと思われる。つまり、収受・回覧・決裁・保存に関わる基本的な文書管理は同様だが、中央と地方は全く異なる構造をもった文書群であったことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In the documents of the local offices of the Taiwan Governor-General During Japanese Occupation, documents of Yingge and Neibu District equivalent to the Japanese local documents, in addition to the documents which have been handed over by the Taiwan Governor-General Office. After having examined the documents of the extremists organizations mentioned above, the filing method of the feudal organization-which is in a lower position in respect of the city and of the region -is characterized by a division by topic and by year. This is due to the difficulty in adopting the same classification as the central government because their matters directly concerned civilians and for that they were various and numerous. In other words, the basic rules of the filing method concerning the reception, the circulation, the decision, and the conservation of the documents were similar, but they were completely different between the central government and the local government if we consider its structure.

研究分野：アーカイブズ学

キーワード：台湾総督府 台湾総督府文書 地方行政機関 近代公文書 村文書 アーカイブズ学 史料学 文書学

1. 研究開始当初の背景

これまでの調査研究では、主に、国史館台湾文献館（以下、「台湾文献館」と称す）が所蔵している台湾総督府の本府の文書である「台湾総督府公文類纂」を収集し分析を行ってきた。

次いで、本府に引き継がれた旧県（台北県・台南県・台中県・新竹県・台東庁・鳳山県・嘉義県）の文書の調査を実施し、近年移管または寄贈された台湾総督府の地方自治体の文書、現在の台湾政府の地方行政機関や学校などの末端機関に残されている日本統治時代の公文書類、さらに民間や私人が個人として所蔵している台湾総督府の地方行政機関や付属機関などの公文書類の調査を行い、部分的に収集してきた。

2. 研究の目的

日本の近代公文書の全貌が判る貴重な史料のなかで最も纏まった形で現存する文書が、台湾総督府文書である。これまでの調査により、本府である台湾総督府の文書構造を明らかにしてきたが、地方行政文書を含めた全ての台湾総督府の文書構造は未だ解明できていない。だが、近年、州または県や庁、街や庄などの地方行政機関の文書や学校の文書などの末端組織の文書が公開されるようになったことから、旧県文書を含めた台湾総督府文書全体を把握することができるようになった。このため、本研究では、さらに地方に埋もれているさまざまな公文書の発掘を進めるとともに、収集してきたこれらの各地方行政機関の文書を分析し、地方行政機関における組織構造と文書管理を明らかにしていく。

3. 研究の方法

本研究は、台湾総督府文書のなかの地方行政機関における文書構造の解明であるため、まず、南投市の中興新村にある台湾文献館が所蔵している明治34年に本府の台湾総督府に引き継がれた旧県（台北県・台南県・台中県・新竹県・台東庁・鳳山県・嘉義県）の文書、台北州の鶯歌庄文書と台中州の内埔庄文書および彰化県の花壇国民学校文書を収集した。

そのなかでも鶯歌庄文書は大量にあり、台湾文献館がデータベース化を行っているが、完全なデータベースではなく、目録は作成されていないため、台湾文献館の閲覧室において、簿冊に添附されている目次で件名を追いながらデジタル化された文書から内容を入力し、必要な部分を印字した。旧県文書は本府に引き継がれたため台湾総督府の文書としての文書群に含まれており、所蔵している台湾文献館において、データベース検索しながら、デジタル化された文書を印字し、必要に応じて内容を入力した。内埔庄文書と花壇国民学校文書は複写本により提供されているため、台湾文献館の電子複写機で複写を行

い、なお、内埔庄文書はデジタル化が完了していたため、デジタル画像を印字することで収集を行った。

地方行政機関における組織機構および文書管理に関するさまざまな情報、主な法令や規則・規程・手続などの法制度については、地方行政組織における制度と運用の観点からの考察を行うために台湾総督府地方官官制・事務分掌・分課規程・処務規程・処務細則などの各地方における主要な法令並びに組織機構の変遷を、台湾総督府文書と府報・州報・庁報・県報などから収集した。これらの収集方法は、台湾文献館（南投市）および中央図書館台湾分館（新北市）において、デジタル化された文書は印刷し、文献資料は電子複写機により複写を行った。

4. 研究成果

台湾総督府は、日本の外地統治機関として中央政府の監督下にありながらも、海を隔てた中央から遠い地域であることから、委任統治権を持った台湾総督の下で営まれた小国家としても見る事ができる。このように小国家的に形成されてきた台湾総督府の行政文書は、膨大な量で階層的に残存しており、これまでの台湾総督府文書の研究により、次のようなことがわかってきた。

まず、本府である台湾総督府の文書構造を文書の編綴状態から見ると、編年ごとに編綴されていること、門類別に分類され編綴されていること、総務・土木・財務などは、特殊文書として、別に編綴していること、編年ごとの編綴に漏れた文書、いわゆる決裁の遅滞などの理由により門類ごとの編綴の際に文書課に移管されていなかった文書を、門類別を問わずに追加として纏めて編綴していること、これらの四つの編綴方法により編纂されている。一方、形態で見ると、日本の歴史的公文書と同様に四つ目綴じであった。このあったというのは、台湾総督府文書を保管する台湾省文献委員会において洋製本する際に綴じ紐が切れ周辺が裁断されたために当初の形態ではなくなってしまったことを意味する。つまり、公文書保存の原則である「出处原則」が保たれていないということである。

このほかに、編年ごとに綴じられた文書を見る際に気をつけなければならない点は、完結文書が文書課に送られて、文書課の職員がそれらを整理し編綴するのは、完結した年度からおよそ八年後に、編纂し製本されているということである。これがどういう意味を持つかということ、門類番号と門類名が、文書を作成した際に立案する当該部局が記載する門類番号や名称ではなく、編纂した年度の番号と名称に変更されているということである。変更された門類名が多く見られるということは、それだけ門類名の変遷があるということになる。

次に、台湾総督府文書の内容構造を階層別

に見ると、本府たる台湾総督府の文書史料群としての台湾総督府文書、台湾総督府の附属機関である専売局文書および関係組織である台湾拓殖株式会社文書、県(庁・州)などの地方自治体における地方行政機関の文書、台湾総督府の地方行政機関の下部組織である街庄などの文書で直接住民に係わる文書、の4つの分類に分けることができる。

そのうちの地方行政機関の文書は、台湾総督府文書に編綴されている引継文書たる旧県文書である。これは、明治34(1901)年に地方行政機関が県という大きな組織から庁という小さな組織へと分割される際に引き継がれたものである。行政単位では分割引継が可能であったが、文書を分離して引き継ぐことはできず、すべて本府である台湾総督府に引き継がれている。しかし、台北・新竹・桃園・台中・嘉義・台南の各県の警察部主管の文書だけは、一時的に本府ではなく台北庁において保管されていたことがわかった。結局、台北庁での保管の際に虫害により廃棄せざるを得なくなり、虫害のない文書もそのまま台北庁に保管されることになる。これらについては、『明治三五年台湾総督府公文類纂永久甲種』第四巻の第四五文書の「各県ヨリノ引継書類整理順序ノ件」から知ることができる。

このように、台湾総督府の本府および地方行政機関の文書は、形態においては、史料学でいう「原秩序維持の原則」に立っていないが、永久に残す必要のある文書は製本してから保存し、そのほかの文書は仮編綴して一時保存するか廃棄するといったように、保存においては、門類名により整理され、目録が作成されて、現在も纏まった形で保管されていたのである。

本府に引き継がれた旧県文書のほかに、近年、国史館台湾文献館(以下、台湾文献館と略記する)に引き継がれた日本の村文書に該当する台北州の鶯歌庄文書や台中州の内埔庄文書、彰化県の花壇国民学校などの学校の文書などの住民に直接関わる文書などがある。これらは、中華民国政府に接收された文書ではなく、各地方の機関がそのまま地方の行政単位の諸機関に残されたものであった。このほかに、台南州の行政文書のように、台南州職員の官舎に残されたままになっていたものが、偶々古書収集家の手にわたり、一九九九年の台湾中部大地震の被害に遭い半分以上が紛失するという運命を辿った文書もある。したがって、地方の行政文書は、本府の文書と違い、偶々残されてしまった文書であり、その文書を見つけた人物または保存してきた機関そして保管された場所によって、その後の運命が決まってしまったのであった。

さらに、これまでの地方行政機関の文書調査において判ってきたことは、戦後間もない時期の中華民国の公文書の形態は、日本統治

時代の形態によく似ていたということである。これは、一九四七年二月に二二八事件が発生する前までは総督府および行政機関関係の職員が留任し、残務処理にあっていたことも理由の一つと考えられよう。

このように台湾に現存する地方自治体の行政文書を調査し、収集を行い、これらの末端機関の文書を分析した結果、県(庁・州)よりも下部組織である街(町)のさらに下部にあたる庄(村)の末端の組織文書や学校の文書の編綴方法は、案件項目ごとに分類され、年度ごとに分類されて編綴されていたことがわかった。その理由は、直接住民にかかわる組織体であることから、案件が多種多様であり、本府と同様の門類分類が出来なかったと思われる。このことは、本府と地方の文書管理は、収受・回覧・決裁・保存にかかわる基本的なことは同じではあるが、分類方法が全く異なっていたということであり、つまり、中央の組織体と地方の末端組織体とは異なる構造をもった文書群であったことが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計17件)

東山京子「内埔庄役場文書から見る台湾総督府地方行政機関の文書管理」(『第八届臺灣總督府檔案學術研討會論文集』、國史館臺灣文獻館・2015年5月、417頁~438頁所収、台湾南投市) 査読あり。

東山京子「台湾総督府地方行政機関の文書管理 - 台北州文書を中心として - 」(『台湾植民地史の研究』、ゆまに書房、2015年3月、81頁~124頁所収) 査読あり。

東山京子「日本帝国の台湾統治文書のアーカイブ」(『知と技術の継承と展開 - アーカイブズの日伊比較 - 』、創泉堂出版・2014年3月、109頁~145頁所収) 査読あり。

東山京子「台湾の震災と台湾総督府官僚 - 被災調査報告の共有化と被災記録の伝承 - 」(『歴史のなかの日本と台湾』、中国書店・2014年3月、95頁~127頁所収) 査読あり。

東山京子「昭和一〇年台湾大地震の被災地における復興と慰霊 - 台湾総督府地方行政機関文書・専売局文書からの考察 - 」(『社会科学研究所』第34巻第1号・2号合併号、中京大学社会科学研究所、2014年3月、67頁~133頁所収) 査読あり。

東山京子「台湾」(『アーカイブズ学要論』、尚学社・2014年2月、224頁~234頁所収)。

東山京子「歴史とアーカイブズ」(『アーカイブズ学要論』、尚学社・2014年2月、142頁~166頁所収) 査読あり。

東山京子「大典と行啓 - 台湾における盛典と記念事業からの考察 - 」(『近代東亜中的臺灣國際學術研討會論文集』、國立臺灣圖書館、2013年12月、190頁~216頁所収、台湾新北市) 査読あり。

東山京子「從恩赦文書看臺灣總督府之文書管理 - 恩赦文書から見る台湾総督府の文書

管理」(『第七屆臺灣總督府檔案學術研討會論文集』、國史館臺灣文獻館・2013年5月、391頁～424頁所収、台湾南投市) 査読あり。

東山京子「中華民國台湾における文書管理」(『社会科学研究』第33巻第1号、中京大学社会科学研究所、2012年10月、85頁～141頁所収) 査読あり。

東山京子「台湾領有初期における対原住民政策－深堀安一郎探検隊と長野義虎意見書からの一考察－」(『社会科学研究』第32巻第2号、中京大学社会科学研究所、2012年3月、269頁～298頁所収) 査読あり。

東山京子「台湾総督府の殖産政策における史料学的分析－台湾統治初期の「殖産報文」と「復命書」からの考察－」(『社会科学研究』第32巻第2号、中京大学社会科学研究所、2012年3月、299頁～350頁所収) 査読あり。

東山京子「帝国の崩壊と台湾総督府の敗戦処理」(『帝国日本の展開と台湾』、創泉堂出版・2011年、215頁～269頁) 査読あり。

東山京子「台湾総督府の敗戦処理についての史料学的考察－台南州の終戦処理二関スル書類」を中心に - (『社会科学研究』第31巻第1号、中京大学社会科学研究所・2011年、173頁～285頁) 査読あり。

東山京子「皇太子台湾行啓関係文書の史料学的分析」(『社会科学研究』第31巻第2号、中京大学社会科学研究所・2011年、65頁～115頁) 査読あり。

東山京子「「台湾総督府文書」の構造と特徴」(『京都大学大学文書館だより』第21号、2011.10.30/Vol.21) 査読あり。

東山京子 解説「台湾総督府文書と殖産報文」(『殖産部史料』、龍溪書舎、2011年) 査読あり。

[学会発表](計14件)

東山京子「台湾統治関係史資料の現状と今後の課題」第1回広島大学文書館研究集会「個人文書の収集・整理・公開に関する諸課題」於広島大学文学研究科棟153教室(広島県) 2015年12月5日、ポスター、予稿集あり。

東山京子「現用からアーカイブズへ(台湾研究編)」共益財団法人りそなアジア・オセアニア財団助成プロジェクト、第4回東アジアアーカイブズ共同研究会主催セミナー、「東アジア情報資源に関する調査研究セミナー・研究報告会」於学習院大学南1号館201号室(東京都) 2015年1月31日、ポスター、予稿集あり。

東山京子「台湾における檔案館と檔案管理」日本アーカイブズ学会2014年度・第2回研究集会「わが国におけるアーカイブズの現状と課題－各国比較を踏まえて」於中京大学アネックスホール(愛知県) 2015年1月24日、ポスター、予稿集あり。

東山京子「公文書管理の歴史」日本アーカイブズ学会2014年度・第2回研究集会「わが国におけるアーカイブズの現状と課題－

各国比較を踏まえて」於中京大学アネックスホール(愛知県) 2015年1月24日、ポスター、予稿集あり。

東山京子「内埔庄役場文書から見る台湾総督府地方行政機関の文書管理」(第九屆臺灣總督府檔案學術研討會報告、於國史館臺灣文獻館(台湾南投市) 2014年8月29日)。

東山京子「台湾統治関係資料情報の公開と課題」2014年度第19回東アジア近代史学会研究大会第14回歴史資料セッション「大学の保管する歴史資料の現状と課題」於麗澤大学(千葉県) 2014年6月21日、ポスター、予稿集あり。

東山京子「台湾における行啓と御大典にかかわる記念事業について」(「近代東亜中的台湾」國際學術研討會報告、於國立臺灣圖書館(台湾新北市) 2013年3月16日)。

東山京子「恩赦文書から見る台湾総督府の文書管理」(第七屆臺灣總督府檔案學術研討會報告、於國史館臺灣文獻館(台湾南投市) 2012年8月30日)。

東山京子「恩赦文書から見る台湾総督府の文書管理」(第七屆臺灣總督府檔案學術研討會報告、於國史館臺灣文獻館(台湾南投市) 2012年8月30日)。

東山京子「台湾の震災と台湾総督府官僚被災調査報告の共有化と被災記録の伝承」昭和一〇年における台湾大地震を事例として」中京大学社会科学研究所日台共同研究シンポジウム「2012年東アジアにおける日本と台湾 台湾史研究の現段階と今後の課題」於中京大学ヤマテホール(愛知県) 2012年7月1日、ポスター、予稿集あり。

東山京子「九・二一台湾中部大地震における文書史料の救助と修復及びその後の対策 住民の記録をどう守ったか」2012年度第17回東アジア近代史学会研究大会第12回歴史資料セッション「激震災害から公文書などの記録資料を如何に守っていくか」於日本大学(東京都) 2012年6月17日、ポスター、予稿集あり。

東山京子「台湾総督府文書が語る日本の公文書管理」L' amministrazione archivistica pubblica giapponese attraverso idocumenti dell' Ufficio del Governatore Generale di Taiwan (「Ca' Foscari Venezia per il Giappone 2012」国立ヴェネツィア文書館主催講演、於ヴェネツィア大学カ・フォスカリ講堂(イタリアヴェネト州)、2012年3月12日)。

東山京子「台湾総督府の文書管理と台湾総督府文書－日本の公文書管理制度に対するアーカイブズの視点から－」(国立政治大学台湾史研究所講演(台湾台北市) 2011年6月21日)。

東山京子「皇太子台湾行啓記録の史資料学的意義－アーカイブズ学からの眼－」(国立台湾師範大学台湾史研究所講演(台湾台北市) 2011年6月14日)。

東山京子「台湾総督府の敗戦処理に関する

史料学的問題について」(台湾光復六十五周年抗戰史実學術研討會報告、中国社会科学院台湾史研究中心主催(中国重慶市)、2010年11月5日~10日)。

〔図書〕(計4件)

共著、檜山幸夫、東山京子(他6名)『台湾総督府文書目録』第30巻、ゆまに書房・2016年、686頁。

共著、檜山幸夫、東山京子(他3名)『台湾総督府文書目録』第29巻、ゆまに書房・2012年、604頁。

共著、檜山幸夫、東山京子(他8名)『台湾総督府文書目録』第28巻、ゆまに書房・2011年、663頁。

東山京子「台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究 - 近代公文書学の構築に向けて - 」2010年度学習院大学人文科学研究科アーカイブズ学専攻博士論文、2010年9月30日提出。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東山京子 (HIGASHIYAMA Kyoko)

中京大学・社会科学研究所・研究員

研究者番号：80570077